

2016年8月26日

～受賞者が1,000件を超過～ 第68回「保健文化賞」受賞者の決定について

第一生命保険株式会社(社長:渡邊 光一郎)が主催する第68回「保健文化賞」の受賞者が別紙のとおり決定しました。

当社は、創業当時より生命保険業を通じた社会への貢献とともに、社会の健康、保健衛生の向上に努めてきました。保健文化賞は、戦争の傷痕が深く残り、衛生環境が悪化する状況にあった1950年に、わが国の保健衛生向上のためにお役に立ちたいと考え、保健衛生の分野におけるご立派な業績と、長年にわたるご労苦に対し感謝と敬意を捧げるために創設されました。創設当時は結核や栄養不足などが社会的に喫緊の課題であったため、主にこれらの分野でのご活躍を応援してきましたが、近年では生活習慣病対策、高齢者や障がい者への福祉、海外での医療や疾病対策など、その時代におけるさまざまな課題に、継続的に取り組んでこられた方々を顕彰しています。

第68回となる本年度は、2月1日から4月15日の期間に募集を行い、団体・個人合わせて57件のご応募をいただきました。この度、審査委員による選考のもと、団体10件、個人5名の受賞者が決定し、今回をもって受賞者総数が、1,000件を超えました。(団体664件と個人341名を合わせて1,005件)

贈呈式は、10月に開催し、受賞者には、厚生労働大臣から表彰状、当社からは感謝状とともに賞金(団体200万円、個人100万円)が贈られます。また、受賞者は贈呈式の翌日、皇居に参内し、天皇皇后両陛下への拝謁を賜ります。

以上

主催 第一生命保険株式会社
後援 厚生労働省
朝日新聞厚生文化事業団
NHK厚生文化事業団

第68回保健文化賞受賞者一覧

受賞者名	都道府県	業績
一般社団法人 札幌市医師会	北海道	救急患者の疾病に応じた体制として、初期救急医療体制、第二次救急医療体制、第三次救急医療体制を年間全日体制とし、診療の空白時間帯には二次救急医療機関が初期救急患者に対応する体制を整備する等、地域の救急医療に貢献している。
岐阜県高山市	岐阜県	疫学的調査により食生活と生活習慣病の関係を明らかにし、その結果を踏まえて市としての健康課題を抽出することにより、食生活などの地域特性に焦点をあてた健康増進計画を策定して保健活動の推進、地域の健康水準の向上を図っている。
愛知県食生活改善推進員連絡協議会	愛知県	公民館等を拠点として、地域住民を対象に地域の状況に合った料理教室や啓発事業等を行うなど地道に実践的な活動を続け、県民の食生活改善の向上や食育を推進し、愛知県が進める「健康長寿あいち」の実現に貢献している。
公益社団法人 日本国際民間協力会	京都府	衛生設備が不十分な発展途上国において、生態学的衛生トイレを建設・普及させ、衛生環境の改善を促進する活動を展開してきた。また、このトイレから入手できるし尿等を肥料として普及させ、地域の土壌改善、水質汚染防止、農業生産の向上に寄与した。
一般社団法人 大阪府医師会	大阪府	初期救急で対応が困難となり重篤に至るおそれのある眼科、耳鼻咽喉科患者を積極的に受け入れるために、高度専門医療が行える二次救急医療機関を確保する大阪府独自の救急医療体制を構築し、大阪府の地域保健・地域医療の推進に貢献した。
佐用町南光歯科保健センター	兵庫県	住民の健康づくりの一環として、ライフステージに応じた歯科診療ならびに予防・啓発活動などの地域歯科保健活動を実施し、口腔保健の改善に努めるとともに、全国的な「8020運動」推進のモデルとしての役割を果たした。
一般社団法人 兵庫県難病団体連絡協議会	兵庫県	兵庫県初となる難病団体として設立して以降、40年以上にわたる難病療育相談会の開催や難病患者実態調査の実施など、難病患者とその家族の生活環境の改善に尽力した。特に阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、災害時における難病患者への支援・防災意識向上に貢献している。
南宇和障害者の社会参加を進める会	愛媛県	南宇和郡内外の住民支援ネットワークにより障がい者との「共生社会の実現」をめざし、住民及び行政機関、民間団体、ボランティア等官民一体となった地域ぐるみの活動を進め、地域住民の障がい者理解に大きく貢献した。
NPO法人 食支援ネットワーク・長崎嚙下リハビリテーション研究会	長崎県	高齢者の食べる楽しみを支え、さらに彼らの肺炎予防や介護者の負担軽減を目標に、専門職に対する摂食・嚙下障害への指導・研修活動に尽力した。また、一般市民に向けた啓発活動に貢献した。
特定非営利活動法人 アジア砒素ネットワーク	宮崎県	鉱山周辺に頻発した砒素による健康被害者への救済・支援活動を40年以上にわたり実施し、地域における公衆衛生の改善に寄与するとともに、その経験をもとにアジア地域での飲料水による砒素中毒対策に尽力し、国際協力に貢献した。
小林 典子	東京都	30年余にわたり一貫して保健師の結核保健看護活動に関する卒後教育に従事するとともに、全国各地で結核対策の企画立案・実施・評価の支援を積極的に行った。特に服薬支援を軸とした患者支援を体系づけた日本版DOTSの開発・普及に貢献した。
樋野 興夫	東京都	「アスベスト・中皮腫外来」の開設に加え、医療現場と患者の隙間を埋め、患者との対話で病気の不安や悩みの解消を図る「がん哲学外来」を開設し、地域の保健衛生に貢献した。
藤田 保	滋賀県	聴覚障がいを持つ医師として、福祉施設での精神保健相談や、勤務する病院で聴覚障がい者外来の実践、学生への教育などを行うことで、聴覚障がい者の精神保健や福祉の向上に貢献した。
松林 公蔵	京都府	高齢者医療は病院では完結せず、高齢者が日々生活する家庭・地域が重要であるとの発想のもとに、多種職の医療スタッフが病院から地域へ出る「フィールド医学」を構想し、地域住民との協働により実践して多大な成果を上げ、地域の保健予防活動に貢献した。
川村 孝	大阪府	プライマリケアの現場において市民に身近な疾病に関する質の高い臨床研究を行うことにより、エビデンスを構築するとともに、第一線の医療職に対する臨床研究の方法論を浸透させることに貢献した。

【都道府県別受賞者数】 合計 1,005 件(団体 664 件、個人 341 名)

	団体	個人		団体	個人		団体	個人
北海道	25	11	石川県	8	3	岡山県	25	10
青森県	6	6	福井県	8	1	広島県	17	4
岩手県	12	4	山梨県	8	5	山口県	10	3
宮城県	19	6	長野県	21	4	徳島県	3	2
秋田県	8	3	岐阜県	14	2	香川県	4	3
山形県	7	3	静岡県	14	6	愛媛県	12	1
福島県	12	5	愛知県	19	9	高知県	7	8
茨城県	15	4	三重県	6	2	福岡県	15	8
栃木県	8	2	滋賀県	5	2	佐賀県	6	2
群馬県	11	6	京都府	11	6	長崎県	14	2
埼玉県	14	8	大阪府	39	16	熊本県	18	6
千葉県	8	6	兵庫県	13	14	大分県	6	2
東京都	86	108	奈良県	3	3	宮崎県	10	1
神奈川県	33	16	和歌山県	6	0	鹿児島県	7	5
新潟県	21	8	鳥取県	14	2	沖縄県	8	10
富山県	7	3	島根県	21	0			

■第1回贈呈式（1950年3月21日）



■第67回贈呈式（2015年10月6日）

